

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 家計調査(2013年1月)

発表日2013年3月1日(金)

～マインド改善を背景に1月の個人消費は好調～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(%)

		実質消費支出 (二人以上世帯)				実質可処分所得 (勤労者世帯)		消費性向 (勤労者世帯)	
		合計		除く住居等(※)		前年比	前期比	季調値	前期比
		前年比	前期比	前年比	前期比				
12	1月	▲ 2.3	0.0	▲ 1.4	0.7	1.4	0.9	73.7	▲ 0.4
	2月	2.3	0.6	1.9	0.8	1.8	2.5	72.7	▲ 1.0
	3月	3.4	0.6	3.3	▲ 0.2	3.7	▲ 0.9	73.0	0.3
	4月	2.6	▲ 0.5	3.3	0.2	2.3	▲ 0.4	73.2	0.2
	5月	4.0	0.6	2.7	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 2.4	74.2	1.0
	6月	1.6	▲ 0.9	▲ 0.4	▲ 1.8	3.7	2.5	73.2	▲ 1.0
	7月	1.7	▲ 0.8	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 4.0	▲ 3.1	74.7	1.5
	8月	1.8	1.2	1.7	1.6	2.6	3.4	72.9	▲ 1.8
	9月	▲ 0.9	▲ 1.3	▲ 2.0	▲ 1.9	▲ 0.1	▲ 1.5	74.3	1.4
	10月	▲ 0.1	0.4	0.5	1.4	▲ 0.1	1.3	73.9	▲ 0.4
	11月	0.2	0.1	0.5	▲ 0.2	1.1	▲ 0.5	74.7	0.8
	12月	▲ 0.7	▲ 0.1	0.1	0.6	0.8	▲ 0.4	75.0	0.3
13	1月	2.4	1.9	2.2	1.8	▲ 0.1	▲ 0.4	76.7	1.7

(出所) 総務省「家計調査報告」

※「住居」、「自動車購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている

○ 前月比で大幅増加

総務省から公表された2013年1月の家計調査実質消費支出(二人以上世帯)は前年比+2.4%(12月:▲0.7%)と増加し、事前の市場予想(+0.4%)を大きく上回った。前月比でも+1.9%(12月:▲0.1%)と増加している。また、より消費の基調を把握できると言われる、住居、自動車購入、贈与、仕送り金などを除いた「除く住居等」でも前年比+2.2%、前月比+1.8%と増加している。ともに前月比でかなり高い伸びであり、強い結果と言える。先日公表された商業販売統計で財消費が増加していたことも併せ、1月の個人消費は好調だったと評価できるだろう。

実質消費指数(季節調整値)で品目別の内訳を見ると、教養娯楽が前月比+3.8%と高い伸びになったことが目立つ。特にサービス関連の消費が好調だったようだ。また、低い気温が続いたことで、電気代、ガス代、灯油等の暖房需要が12月に続いて増加し、光熱・水道が前月比+1.2%(12月:+4.3%)と増加している。

○ 1-3月期の個人消費もプラスの公算高まる

この結果、13年1月の実質消費支出は10-12月期の水準を1.9%上回った。「除く住居」ベースでも2.2%上回っており、1-3月期の個人消費は良好なスタートを見せている。1月の家計調査はやや出来過ぎの感はあるが、仮に2月に多少反動が出たとしても1-3月期での前期比プラスは確保できそうだ。

そのほか、業界統計によれば、自動車販売台数は12年10月をボトムとして4ヶ月連続で前月比増加しており、1-2月平均の値は10-12月期を6.1%上回る(季節調整は第一生命経済研究所)。これらを踏まえると、13年1-3月期のGDPベース個人消費は、12年10-12月期に続いて前期比でプラスになる可能性が高いだろう。家計の所得環境は依然厳しいが、株価の上昇や景況感の改善に伴う消費者心理の好転が消費を下

